Japan Hang & Paragliding Federation ● https://jhf.hangpara.or.jp
JHFレポート254号
2026年7月30日発行
JHF REPORT
Japan Hang & Paragliding Federation

2026年JHF通常総会を開催しました

都内の会場では21正会員が出席し議事に臨んだ。

6月16日（火）、東京都のTKP九段下神保町ビジネスセンター、カンファレンスルーム3Aにおいて、正会員（都道府県連盟）21名の出席と、バーチャル参加10名、議決権行使16名による47都道府県連盟の参加を得て、2026年JHF通常総会を開催しました。

議事前に、5月28日に逝去された茨城県ハング・パラグライディング連盟理事長の板垣直樹氏に黙祷を捧げました。また日本学生フライヤー連盟の浅田拓郎理事長より活動報告と今年度は安全セミナーの定期開催を検討しているとの報告がありました。

報告、決議事項は下記のとおりです。

□報告事項1　2025年度事業報告
□報告事項2　2025年度決算報告・監査報告
□決議事項1　貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
→賛成46（会場21、オンライン参加9、議決権行使16）で承認された　＊1名遅れて参加のため46票
□報告事項3　2026年度事業計画
□報告事項4　2026年度収支予算
□決議事項2　JHF総会傍聴規約一部改正について
→賛成46（会場20、オンライン参加10、議決権行使16）、棄権1（会場）で承認された
□決議事項3　JHF役員選任規約の一部改正について
→賛成44（会場18、オンライン参加10、議決権行使16）、棄権3で承認された

●JHF総会傍聴規約一部改正について

2020年以降、JHF総会はオンラインと対面開催を併用したハイブリッドで開催されている。

このため傍聴もオンラインでの傍聴が可能であり、そのような傍聴形態に対応した規約となる。

●JHF役員選任規約一部改正について

令和7年（2025年）4月1日施行の「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」（以下「認定法」）の改正に伴い公益社団法人であるJHFにおいても改正認定法第5条第15号・16号に定める外部理事・外部監事を選任することが義務付けられ、2025年6月17日から適用となった。

今回の改正変更点は、外部理事・外部監事の設置に関して、第9条立候補資格の要件を緩和し、JHFフライヤー会員登録を不要とし、推薦人は正会員に加えて理事会及び委員会による推薦を可能にする等、より広い候補者から適任者を選出できるようにするものである。

上記改正に伴い第10条、14条、15条の文言の修正を行った。

第11回FAIハンググライディングクラス5世界選手権、Task4のテイクオフより（14-15ページに報告を掲載）

スポーツくじ
WINNER SOCCER・BASKETBALL　toto FOR ALL SPORTS OF JAPAN　BIG
JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

安全に楽しく

ハンググライダーパイロットの落下事故

JHF安全性委員会　委員　山本　貢

去る５月28日午後３時頃、ドイツ、ヘルトヴァーグにて、クラス５ハンググライダーのパイロットが、機体から分離、落下する事故が起きました。

残念ながらパイロットは死亡。イタリアで行われるクラス５世界選手権にて使用する機体の調整飛行を行っていた際の出来事でした。

いつもと違う環境が重なって

事故後すぐに、地元警察とこの機体のメーカーの人間とで事故検証が行われましたが、ハーネス側に、本来そこにあってはならないスイングラインが、カラビナに付いた状態であったことが分かりました。この事実により、「パイロットは、スイングラインを適切に機体につけないまま飛行してしまい、落下してしまった」としか考えられないという結論に至りました。

事故を起こしたパイロットは、ハンググライダー歴37年。日本のみならず国際的にも有名なパイロットです。なぜこのような、ハンググライダー界の頂点に位置する者が、これほど基本的かつ初歩的なミスを犯したのか…。

その理由の一つとして「いつもとは違う環境だった」ということが見逃せません。事故当時者は、いつも飛んでいる場所とは違う海外のエリア、世界選手権という一大イベントを控えていた、久々にドイツの友人と会えたなどのいつもとは違う環境がいくつか揃っていた状態でした。

このようないつもとは違う環境が重なった場合、人間は初歩的なミスを犯してしまうことがあり、それは以前より報告されています。

事故当時者はフライト前に、スイングラインの長さが合わずに、自分で交換していたことが分かっています。このとき、上記のようにいつもとは違う環境だったために、スイングラインをループに通すという極めて基本的かつ初歩的なことを忘れてしまったことが考えられます。

人間は信じられないミスを犯す

「そんな基本的なこと、どうして忘れてしまうの？」と思われる方も多いと思います。しかし、人間というものは、時として信じられないミスを犯してしまうものです。

「頭の中が他のことでいっぱいになっていた」、「他にもやらねばいけないことがたくさんあった」、こんな時にいつもできている簡単なことがおろそかになってしまっていた…。そんな経験は誰でもお持ちではないでしょうか？今回の事故も、まさにこの要素があったことは否定できないと思います。

最後まで集中＆クロスチェック

このような基本的なミスを防止する対策として、一つのことを行い始めたら、完全にその作業が終結するまで続け、最後にもう一度確認を行う慎重さは必要です。また、周りの人間も、そのような作業を行っている者がいた際には、その人間の作業を止めるような話しかけ、あるいは、頼みごとなどをしてはいけない…。そんな気遣いを持つことも、私は重要であると思います。

また、どんなに基本的かつ単純なことであったとしても、変更点があった場合、必ず違う人間がそれのチェックを重ねる、いわゆる「クロスチェック」も重要です。

今回の事例の場合、もしこのクロスチェックが行われていたら、おそらくは事故を防げていた典型的な例と言えるでしょう。

最後に、亡くなられたパイロットのご冥福をお祈りいたします。

2026年の事故報告　3月21日～6月16日

	事故日	機種	天気	内容	EN	年齢	経験	性別	技能証	状況
12	2026/3/21	PG	晴れ	J1競技中、潰れから緊急パラシュート開傘、ツリーラン	C	61	35	男	XC	無傷
13	2026/3/21	HG	晴れ	着陸時のフレアー操作遅く激突		55	30	男	XC	手骨折
14	2026/3/29	PGとPG	晴れ	600m位の高度を直進中右斜め後方下より上昇してきて相手パラが足、ハーネスに当たった	B	72	3	男	NP	無傷
15	2026/5/2	PG	晴れ	タンデム。LD時少し下降気流がある中、スライディングをして降りたが、足が草に引っかかりパイロットが左足骨折。同乗者怪我無し。	B	53	20	男	XC	足骨折
16	2026/5/5	HG	晴れ	風向き不安定、LD直前でフォローとなりフォローLD。フレアが掛からずノーズからダイブして着地。全身強打、ドクターヘリで搬送		60	40	女	XC	胸椎骨挫傷
17	2026/5/2	PG	晴れ	地上10mほどで前縁の潰れ、引きすぎ失速に入り背中を強打	B	74	20	男	P	背中骨折
18	2026/3/15	HG	晴れ	LDアプローチ中アップライトに持ちかえた直後に機体がとられ、着陸しようと試みたが、強風に煽られフォローを向き民家に衝突		55	34	女	P	打撲
19	2026/5/5	PG	晴れ	XCでアウトラン。アプローチ中、大きなシンクに遭遇し、民家の屋根に左足が接触。そのまま飛行し予定していた休耕地にLD	CCC	26	8	男	XC	足捻挫
20	2026/5/10	PG		体験フライトに参加、待機中に強風になり飛ばされて複数怪我			0	男女		鎖骨骨折
21	2026/5/10	PG	晴れ	タンデム。長めの直線アプローチで入ったが、着地の寸前に沈下が強く酷着。同乗者は右足をやや捻る着地で怪我	B	49	6	男	XC	足首骨折
22	2026/6/13	PG	晴れ	LDアプローチで右翼が立ち木に接触し傾いて酷着	A	71		男		腿から足骨折
23	2026/5/18	PG	晴れ	TO後リッジソアリング、粘りすぎて沖に出したが間に合わずツリーラン	A	78	9	女	P	無傷
24	2026/5/28	HG	晴れ	装着ミスによるフックアウト		62	37	男	XC	死亡
25	2026/5/30	PG	晴れ	タンデムにおいて、風が強く風待ちから弱まり、離陸するが右翼潰されスピンして落下。パッセンジャー足骨折	B	54	32	男	XC	腿から足骨折
26	2026/6/13	PG	晴れ	アキュラシーLDアプローチによる引きすぎ失速落下	A	62	35	男	XC	腰椎骨折
27	2026/6/16	PG		LD上空20m位から墜落		71		男		死亡

絶対に起きてはならない航空機との事故

JHF安全性委員会　委員長　伊尾木 浩二

最近、海外で衝撃的な事故が発生しました。パラグライダーで飛行中、小型航空機がパラグライダーの翼に突っ込んだのです。パラグライダーパイロットは緊急パラシュートで無事に着地することができました。でも、あと数メートル小型航空機の高度が違っていたら、お互いの命に影響があったかもしれない恐ろしい現実。この事故映像を見た限りでは、パラグライダー側が対処することは不可能であったと思われます。しかし、航空機との衝突リスクを減らすという意味では、パラ、ハンググライダーパイロットにおいても知識を持つことは重要です。今後は無人航空機についての知識も必要です。

グライダーは５キロ先のPGを視認

現在、航空機ではトランスポンダー、ADS-Bと航空機同士が衝突を防ぐ発信機が搭載されている機体がほとんどです。グライダーではFLARMが主流で、日本でも今年８月頃から全国のグライダーに一斉に搭載されます。

小型航空機は旅客機と違ってVFR（有視界飛行方式）で飛行していることが多く、パイロットが外部を見渡す視野を広めに確保できるよう設計されています。飛行速度100km/h～200km/h程度でも、周囲警戒をしていれば、グライダーの操縦席から５キロ離れているパラグライダーも十分視認できます。

旅客機がPG/HGを避けるのは困難

旅客機について日本航空の元教官に尋ねたことがあります。パイロットの座席位置はパイロットの目の位置を基準に調整され、基本的にIFR（計器飛行方式）での飛行のため、計器を見渡せるポジションとなるそうです。前方、側面にある窓は小さく、ジャンボジェット機などのウインドスクリーンの視界は手のひらサイズ程度とのこと。また、旅客機は高度10000ft（約3300m）を切ると速度を250kt（約450km/h）以下に下げなければいけないルールはありますが、それでもかなりの高速です。旅客機パイロットは計器や航法装置、また航空管制官等の指示において飛行しています。外部を見渡し周囲警戒をしていますが、現実は視界が狭く速度も速いことから、パラ、ハンググライダーが目の前に現れると避けることは困難だろうということです。

リスク減のために何を学ぶか

では、我々はリスクを減らすためにどのようなことを学ぶ必要があるのでしょうか？

まずは日常の飛行に注意すること。パラ・ハングで決められた空域内で飛行していれば航空機との衝突リスクは少なくなります。稀に自家用航空機、送電線点検ヘリコプター、軍の航空機が近くを通過ということを聞きますが、この場合、航空機側はVFRで周囲警戒しながら飛んでいるはずです。

パラ・ハングでクロスカントリー飛行を行うとき、外の空域に出て行くことになり、あらゆる情報を入手して飛行ルート、プランを構築する必要があります。空港がある場合は旅客機の飛行コース、運行時間などの情報が必須。また、ヘリの離発着ポイント、グライダーの滑空場の位置情報も入手不可欠です。NOTAM（公式の航空情報）を見れば、熱気球や無人機情報も出ていることが多いです。

最近のGPSバリオでは、ADS-Bの受信、FLARM、FANETといった位置情報を発信、受信する機能が内蔵され、海外ではアプリとの連携で航空機との衝突防止に力を入れている国もあり、今なお進化し続けています。日本国内においても徐々にこういったシステムを活用し自分の身を守る対策、知識と判断が重要となることでしょう。JHF安全性委員会としても、新たな情報、活用できそうなアイテムを含めて、発信していきたいと考えています。

セーフティノーツ：必ずご確認を！

JHFウェブサイトの安全性委員会ページにDHV（ドイツのハンググライディング・パラグライディングを統括する連盟）やメーカー等が発表する、ハンググライダー、パラグライダー、それらの装備品に関する安全情報「セーフティノーツ」があります。以下は最近の更新情報です。詳しくはJHFウェブサイト＞安全性委員会のページをご覧ください。

■Woody Valley社 Quadro100/120/140/220 レスキューパラシュート
必要に応じて新手順でのリパックを

■Pro Design 社 ALFAcross*80/*100/*115/*120/*140/*220 レスキューパラシュート
必要に応じて新手順でのリパックを

■Woody Valley社 MK1/MK1 PRO　ハーネス
救助用ハンドルの重要な縫目が欠損

■Woody Valley社 RACE　ハーネス
ゲットアップハーネスシステムのウィンドゥラッチが勝手に開く

【セーフティノーツ】
https://jhf.hangpara.or.jp/jhsc/safetynote/note001.html

タンデムパイロットの皆様にご注意！

タンデムフライトにおいて一般の方を同乗される場合には、JHF上級タンデム技能証が必須です。まず検定を受けて、技能証を取得してください。検定会の予定はJHFウェブなどでご案内しています。

上級タンデム技能証を保有していない方が一般の方とタンデムフライトをしているのを見かけた方はお手数ですがJHF事務局までお知らせください。

上級タンデム技能証保有者リストは下のQRコードから確認できます。

【JHFウェブサイト】
https://jhf.hangpara.or.jp
JHFのご案内

JHFの2025年度事業

2026年JHF総会資料「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 2025年度事業報告」より

Ⅰ　概要

ハンググライディング・パラグライディングの安全な普及と競技力向上に向けた事業を2025年度も進めました。

組織運営ではリモート会議やSNS等を活用し意思決定の迅速化と経費削減に努めました。また各種講習・検定会により指導や安全管理体制の維持・向上を図り、各地の体験会への協賛・後援等を行いスカイスポーツの魅力の発信と社会的認知の向上に努めました。

競技面ではハンググライディングクラス５世界選手権において板垣直樹選手が世界選手権者となるなど大きな成果があり、安全面では安全意識の向上と技術水準の維持に努めました。今後も会員が安全にフライトを楽しめる環境づくりを進めていきます。

１．収支の現状

2025年度においても、連盟の財政運営は厳しい状況にありました。年度末有効会員数が前年度末から約450名減少したことは大きな課題です。フライヤー保険料をはじめ固定的経費の負担は大きく、公益社団法人として継続すべき事業には一定の支出が必要であり、単純な支出削減だけでは、連盟の事業目的を十分に達成することが困難です。

今後は会費収入のみに依存しない安定的な財政運営を図る必要があり、会員サービス、安全対策、普及振興、競技支援の水準を可能な限り維持しながら、持続可能な財政運営に努めます。

２．組織運営等

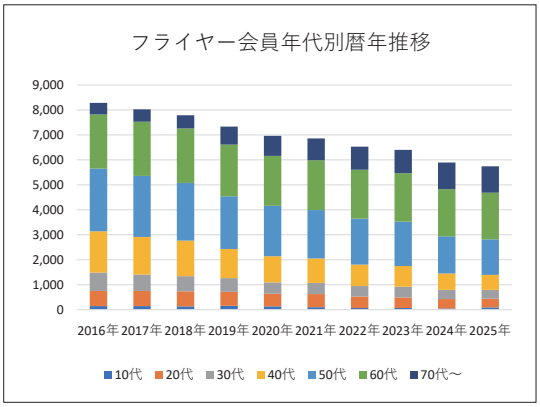
１）教員検定員による教員助教員更新講習会を９カ所で開催、42名が受講（PG：40名、HG：２名）

２）レスキューパラシュートリパック更新講習会を５カ所で開催、19名受講

３）教員技能証実技検定を２名が受検（PG：２名、HG：０名）、学科検定については集合研修検定を３月８日に開催し４名受検（PG：２名、HG：２名）

４）上級タンデム検定会を開催　10回

５）第12回JHFフォトコンテスト開催



３．特記事項

１）第47回鳥人間コンテスト2025を協賛　７月26日～27日　滋賀県彦根市松原湖岸

２）一般財団法人日本航空協会の第55回航空スポーツ教室「スカイ･キッズ･プログラム」　５月18日　東京都ハング･パラグライディング連盟が協力し、パラグライダーVR体験

３）後援体験会

○４月５日～６日　東京都多摩川河川敷　日本学生フライヤー連盟関東支部ハンググライダー、パラグライダー体験会

○４月29日　愛媛県八幡浜市　第50回二宮忠八翁飛行記念大会　パラグライダー体験会

○11月15日～16日　栃木県みかも山公園　パラグライディング地上体験会

４）第30回スカイスポーツシンポジウムを協賛　12月６日　東海大学品川キャンパス２号館大講義室

Ⅱ　事項別状況

１．組織

１）会員数

正会員47　フライヤー会員（2026年３月末有効登録数）5,269名

賛助会員７

２）役員構成（2026年３月末現在）

理事７名（内会長１名、副会長２名）　監事１名

２．会議等の開催

１）総会

2025年６月通常総会

開催通知：2025年４月３日（木）

開催日：2025年６月17日（火）13:00～17:00

開催場所：東京都　TKP神田ビジネスセンター　カンファレンスルーム604

議案：

報告事項１：2024年度事業報告について　報告事項２：2024年度決算報告について　決議事項１：貸借対照表及び損益計算書の承認について　報告事項３：2025年度事業計画について　報告事項４：2025年度収支予算について　決議事項２:公益社団法人日本ハング･パラグライディング連盟定款一部改正について　決議事項３：JHF役員選任規約一部改正について　決議事項４：JHF役員の選任

２）理事会　（　）内は出席者数

第１回：５月15日（理事６・監事１）

第２回：６月17日（理事６・監事１）

第３回：８月１日（理事７・監事１）

第４回：11月14日（理事７・監事１）

第５回：１月27日（理事６・監事１）

第６回：３月19日（理事７・監事１）

文書理事会：４月２日、４月９日、６月16日、７月３日、８月８日、８月19日、11月18日、12月12日、１月６日（２件）、３月24日、３月30日、３月31日

３）委員会

■ハンググライディング競技委員会

11月５日、14日　他競技会開催時実施

■パラグライディング競技委員会

６月15日　他競技会開催時実施

■補助動力委員会

５月28日、７月７日、９月24日、10月24日、11月20日、１月12日、１月10日、２月12日

■教員・スクール事業委員会

４月17日、９月22日、12月８日、12月15日、２月10日

■安全性委員会

４月23日、10月２日、11月13日、１月20日、３月６日、３月12日

■制度委員会

５月12日、８月27日、12月23日、１月28日、２月20日

■ハングパラ振興委員会

５月20日、10月21日、１月21日

■役員選任実行委員会

５月12日

■委員長理事合同会議
２月17日
リモート会議を中心にSNSや電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

３．事業の実施状況

１）普及振興活動
○JHFレポートを発行（４月、７月、10月、１月）＊独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています
○都道府県連盟事業費の交付
○日本学生フライヤー連盟へ助成金交付
２）フライヤー会員登録
新規・更新登録数：2025年度4,831名
2024年度4,743名
３）技能証発行　（　）内は2024年度
ハンググライダー119枚（127枚）
パラグライダー638枚（709枚）
モーターパラグライダー４枚（５枚）
レスキューリパック認定証57枚：新規12更新45
４）競技会の主催・公認・後援
ハンググライディング13件（内FAIカテゴリー１・２：10件）
パラグライディング20件（内FAIカテゴリー１・２：３件）
ハンググライディング・パラグライディング同時開催２件
５）競技会の開催
■ハンググライディング
○クラス１日本選手権　４月26日～29日　山形県南陽エリア　参加43名
○クラス５日本選手権　４月26日～29日　山形県南陽エリア　参加13名
○ハンググライディングシリーズ　参加72名
■パラグライディング
○日本選手権　10月11日～14日　徳島県吉野川エリア　参加79名
○アキュラシー日本選手権　11月29日～30日　静岡県朝霧エリア　参加30名
○ジャパンリーグ　参加170名、成立大会７
６）スクール・エリア情報の収集及び公開
○スクールサイト登録校　53件
○エリア情報掲載　175件
７）海外関係団体活動
○CIVL総会　2025年３月６日～９日　モンテネグロ　出席者：岡芳樹（デレゲイト）、牟田園明（オルタネート）
８）世界選手権等へのチーム派遣
○第24回FAIハンググライディングクラス１世界選手権／第10回FAIハンググライディングクラス５世界選手権　７月13日～26日　スペイン　クラス１選手７名、クラス５選手５名
○第３回FAIハンググライディングクラス１スポーツクラス世界選手権　６月１日～14日　イタリア　選手１名
○第19回FAIパラグライディング世界選手権　８月30日～９月13日　ブラジル　選手３名
○第13回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権　10月９日～19日　トルコ共和国　選手５名
○第５回FAIパラグライディングアキュラシーアジア選手権　2026年２月７日～15日　タイ　選手７名
９）その他
○機体型式登録　パラグライダー０件、ハンググライダー１件
○機体情報登録　０件

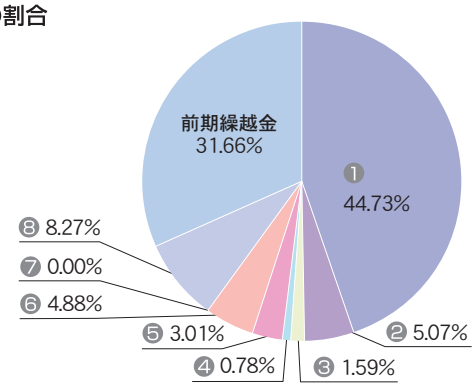
■この報告は要約しています。全文はJHFウェブサイトでご覧ください。
【JHFウェブ：情報公開】
https://jhf.hangpara.or.jp/office/disclose.html

2025年度決算報告より

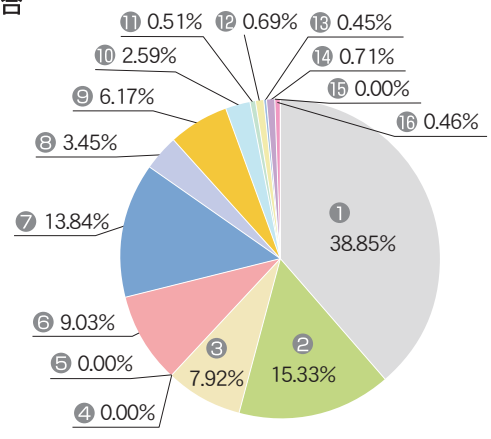
収　入　（単位:円）	
❶会費等	35,010,268
❷技能証の発行に基づく収入	3,970,000
❸競技に関する収入	1,242,000
❹教本等の頒布に伴う収入	614,000
❺検定会参加費	2,360,000
❻補助金	3,823,000
❼機体登録費	0
❽その他	6,474,503
前期繰越金	24,785,108
合　計	78,278,879
特定資産取崩	4,700,000

支　出　（単位:円）	
❶会員サービスのために	22,588,883
❷JHFの維持運営のために	8,917,111
❸都道府県連盟の補助のために	4,607,982
❹公益事業の推進のために	0
❺世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	0
❻広報・普及活動のために	5,253,151
❼日本選手権、世界選手権や国体デモスポのために	8,046,797
❽競技のために	2,005,268
❾よりよい教習環境のために	3,586,947
❿委員会活動のために	1,505,485
⓫補助動力のために	298,420
⓬学生の補助のために	400,000
⓭事故調査や安全のために	261,640
⓮海外との交流のために	411,059
⓯制度のために	0
⓰総会のために	267,320
合　計	58,150,063

収入の割合



支出の割合



2025年度の委員会活動

2026年JHF総会資料「2025年度委員会活動報告補足」より

ハンググライディング競技委員会

委員長：牟田園 明

1）ルールブックの改訂

2）委員会ホームページの運営

公認大会の情報、ハングシリーズ大会のエントリー情報の更新は随時実施

3）2025年HGクラス1日本選手権開催　山形県南陽エリア　4月26日～29日　43名参加　タスク1本成立　日本選手権不成立

4）2025年HGクラス5日本選手権開催　山形県南陽エリア　4月26日～29日　13名参加　タスク1本成立　日本選手権者宍戸俊之

5）クラス1＆クラス5世界選手権への代表選手派遣　7月13日～26日、スペインAger［クラス1］26か国115名参加　タスク6本成立　国別優勝イタリア、8位日本　個人優勝Petr Benes（CZE）、26位名草慧、27位大陽智仁、41位田中元気、48位鈴木由路、51位砂間隆司、65位野尻知里、70位小梶渓太［クラス5］11か国32名参加　国別優勝オーストリア、4位日本　個人優勝板垣直樹（日本）、14位塩野正光、18位山口裕之、30位松田隆至、32位冨原淳

6）クラス1スポーツクラス世界選手権への代表選手派遣　6月1日～14日　イタリアLaveno　43名参加　タスク6本成立　優勝Peter Song（USA）、13位北野正浩

7）シリーズ大会の運営サポートおよびCIVLへの報告［クラス1］1月：西富士、2月:足尾、3月:板敷、4月:南陽（日本選手権）、5月：信濃平、9月：砺波、10月：足尾、紀ノ川［クラス5］1月：西富士、2月：足尾、4月：南陽（日本選手権）、11月：足尾

8）ハングシリーズ管理運営　参加人数72名　総合1位田中元気　女子1位野尻知里　クラス5：1位板垣直樹

9）フライトコンテストの運営

○ストレートディスタンス　クラス1：1位小梶渓太176.2km　クラス5：1位内藤邦裕203.7km　○アウトアンドリターン　クラス1：1位服部良亮78.94km　クラス5：1位古坂学俊111.53km　○トライアングル　クラス1：1位杉岡洋介75.2km　クラス5：1位古坂学俊113.91km　○デュレーション　1位児玉智雅5:10

10）各種大会のJHF公認および後援申請に対する審議および承認

11）SNSによる情報発信

12）ハンググライディング競技者育成プログラム（Fledge：フレッジ）の運営

○ハングシリーズ大会の運営支援　4月：山形県十分一山エリア、5月：長野県信濃平エリア、9月：富山県つくばねエリア

○スポーツクラス大会の開催　8月：岐阜県池田山エリア、10月：茨城県足尾山エリア

○競技練習会の開催　6月：富山県つくばねエリア

○初級者～上級者向けトレーニングキャンプの開催　2月：和歌山県紀ノ川エリア、3月：和歌山県紀ノ川エリア

○フライトセミナーの開催　11月：Web開催

パラグライディング競技委員会

委員長：岡　芳樹

1）ルールブックの改訂

2）WEB事務局・ホームページ管理

3）第19回PGXC世界選手権へ選手団派遣　チームリーダー：長島信一　ブラジルCastelo　2025年8月30日～9月13日　参加選手128人(内女子24人)、参加国と地域：52　総合1位Baptiste Lambert（フランス）、43位小林大晃、62位平木啓子、63位岩崎拓夫　女子1位Constance Mettetal（フランス）、3位：平木啓子　国別1位フランス、20位日本

4）第13回PGアキュラシー世界選手権へ選手団派遣　チームリーダー：岡芳樹（選手兼）　トルコAlanya　2025年10月9日～19日　参加選手140人(内女子28人)　参加国と地域：36　総合1位Yang Chen（中華人民共和国)、19位花田瞬、79位河本勇吉、102位橋本みさ紀、105位古田岳史、110位岡芳樹　女子1位Karolina Koudelova(チェコ)、18位橋本みさ紀　ジュニア1位Karolina Koudelova（チェコ)、9位花田瞬　国別1位中華人民共和国、16位日本

5）第5回PGアキュラシーアジア選手権へ選手団派遣　チームリーダー：岡芳樹（選手兼）　タイPha Tak Suea　2026年2月7日～15日　参加選手97人（内女子26人）　参加国と地域：11　総合1位Yang Chen（中華人民共和国)、31位花田瞬、37位梅迫賢一、40位河本勇吉、47位岡芳樹、48位古田岳史、64位平野竜二、68位伊藤まり子、78位川村眞、92位：内田薫　女子1位Xiangyan Kong（中華人民共和国)、14位伊藤まり子、25位内田薫　ジュニア1位Wenkai Dong（中華人民共和国)、10位花田瞬　国別1位中華人民共和国、5位日本

6）Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理

○Jリーグ：参加170名（内女子27名)、成立大会7　オープンクラス1位荒井大悟　オープンクラス女子1位平木啓子　スポーツクラス1位小林敦之

○J2リーグ:参加151名（内女子26名)、成立大会4　総合1位瀧鼻秀明　女子1位後藤春菜　チーム1位熊さんチーム

○XCリーグ:参加68名、740本（10km以上）　1位多賀純一565.16km　最長フライト多賀純一171.4km

○AJリーグ　参加48名（内女子10名)、成立大会5　スクラッチクラス1位河本勇吉　スクラッチクラス女子1位橋本みさ紀　ハンディキャップクラス1位上野亨　ジュニアクラス1位花田瞬　チーム1位丹パラA

7）2025年度XC日本選手権開催　徳島県吉野川エリア　2025年10月11～14日　2本成立　79人参加（内7人海外選手）　規定により日本選手権として成立　日本選手権総合1位荒井大悟　日本選手権女子1位平木啓子

8）2025年度アキュラシー日本選手権開催　静岡県朝霧エリア　2025年11月29～30日　12ラウンド成立　30人参加（内4人海外選手）　規定により日本選手権として成立　日本選手権総合1位河本勇吉　日本選手権女子1位橋本みさ紀　オープン総合1位河本勇吉　オープン女子1位Bolormaa Bayaraa

安全性委員会

委員長：伊尾木 浩二

1）2025年度事故件数　報告52件　死

亡事故８件　PG38件（死亡事故５件）、PGTD６件（死亡事故１件）、MPG１件（死亡事故１件）、MPGTD１件（死亡事故１件）、HG６件（死亡事故０件）
※タンデム事故多数発生
※防げる事故をなくす対策
２）事故調査報告書の作成
・６/７宮崎県のタンデム事故に関して事故調査実施
３）セーフティーノーツの管理
・定期的にDHV、BHPA等の情報を確認し、可能な範囲でウェブに反映（最終確認2026/２/４）
４）安全性委員会ホームページ状況管理
・定期的に確認（最終確認 2026/2/4）
５）JHFレポート各号に記事の掲載
６）JHFウェブページによる注意喚起情報の提供
７）チェック５タグの普及促進を継続（安全注意喚起）
８）機体登録の簡易化を実施
９）PGパイロット安全セミナーテキスト作成について実施中
10）無人航空機対策：エリアMAPをWEB表示化継続
11）横田基地　空中衝突回避セミナー参加　2025年10月３日
12）2002年より以前の事故概要データ化を実施完了
13）ツリーランディング救助講習会実施　2026年２月25日　静岡県田貫湖ふれあい自然塾　講師：南裏健康氏
14）安全性委員会として安全セミナー実施　2025年11月８日　スカイ朝霧
15）警察庁警備局より『小型無人機等飛行禁止法』に伴う機材の性能の問い合わせ対応
16）JAAより「低高度空域の安全確保に必要な航空情報のあり方に関する調査」あり

教員・スクール事業委員会

委員長：北野 正浩
１）PG・HG・MPGパイロット安全セミナーの開催　１ヵ所　16名参加
２）教員実技検定会２名（PG２名、HG０名）
３）教員学科集合検定会　2026年３月８日　東京（JHF事務局）HG２名、PG２名
４）上級タンデム技能証検定会（計画12回、開催10回、天候不良中止２回）136名受検（含再検定）
５）教員助教員更新講習会　９ヵ所42名（PG40名、HG２名）
６）レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会・検定会　５ヵ所更新19名、新規２名
７）スクール登録　随時事務局で受付中
８）タンデム教本の作成（上級タンデム教本と分冊にする）原稿読み合わせ中
９）教員養成課程の制定（スポーツ協会リファレンスブックを元にHG・PGに合わせた内容を検討中）
10）教員学科検定の予備講習：対象者は不合格者に限らず、新規受検希望者も募集して予備講習を実施。参加２名。３月８日の検定に向けて講習。受講者が２万円、JHFが３万円を負担し指導する教員検定員に５万円の報酬支払い。
11）教員検定員研修検定会の開催　2026年２月26-27日　富士山YMCA　23名参加（PG17名、HG５名、PG&HG１名）

補助動力委員会

委員長：小川 勝良
１）JHF MPG補助動力フライトにおける浮力体（膨張型ライフジャケット）の常時携帯テキスト作成
２）トーイング安全講習会実施　受講者４名　2025年９月９日愛媛県東温市
３）新設補助動力上級タンデム技能証について継続協議
４）安全セミナー開催　佐賀県三養基郡：３月15日、19名参加　滋賀県長浜市：３月５日、10名参加
５）安全に飛ぶための基本動画作成（完成しホームページにアップ済）

制度委員会

委員長：中瀬　誠
１）JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
１　理事会諮問事項への答申等
・公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」「公益信託に関する法律」の改正に伴う「JHF定款」と「JHF役員選任規約」の改正
・技能証申請料金改定：別紙改正
・「JHF助成金事業交付規程」改正
・HG/PG/MPG各技能証規程　改正（他団体発行技能証からの切り替え）
２　JHFホームページ上の総覧整備（規程改正およびFAI部分）
https://jhf.hangpara.or.jp/office/office.html
２）上位団体、他委員会および事務局との連携
１．HG/PG技能証規程改正について
教員・スクール事業委員会と連携
技能証総合科目と実技検定試験科目
２．教員検定受検資格について
３．事務局との連携

ハングパラ振興委員会

委員長　堀江　譲
１）今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り
・フライヤーズボイスの定期更新体制の立案と運用
JHF Report発行に同期した更新体制とJHF Reportへの要約記事掲載
2025年４月田中智治／７月平林友也／10月入星光輝／2026年３月大竹口昌輝
・飛ぶのを止めてしまった方の状況分析
・学生が卒業して止めてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
・家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」制作、学生向けに配布
・SNS（Facebook 等）を活用した情報発信の検討→写真コンテスト検討
・JHF LIVE（LINE公式アカウント）の運用（試行中）
・SportsNavi への投稿
・PR Timesとの協力関係締結 → 契約条件確認中
２）体験会等イベントへの協力
「新しい生活様式」におけるイベントの模索
３）外部組織との連携
VR体験に関する大学研究室との協力体制維持
４）JHF Report企画立案への協力・編集委員会への出席
５）メディア対応（各都道府県の記者クラブへプレスリリース）→記者会見をサポートする体制の構築

役員選任実行委員会

委員長：鈴木 由路
１）役員選任規約の改正
２）2025年度総会における役員選任の実施

■この資料は要約しています。全文はJHFウェブサイトでご覧ください。５ページのQRコードからもどうぞ。

JHFの動き

常設委員会と役員選任実行委員会の委員を選任しました

252号でお知らせしたとおり、JHF常設委員会・役員選任実行委員会の委員の任期が2025年３月31日に満了のため、次期委員を募集しました。

全国から立候補をいただき、JHF理事会において次の方々を新委員として選任しました（敬称略、あいうえお順、◎は委員長）。

新委員の皆さん、頑張ってください。またフライヤー会員の皆さん、2026年度・2027年度の２年間、JHFの様々な活動を担っていく委員へのご協力をよろしくお願いします。

●パラグライディング競技委員会
定員５名＋アキュラシー競技委員１名
阿知波広和、荒井大悟、岡芳樹◎、
鈴木洋史、長島信一、村上修一

●ハンググライディング競技委員会
定員５名
櫻井大朗、鈴木皓子、中西亮太、
箕谷将明、牟田園明◎

●補助動力委員会
定員５名→今期６名
伊尾木浩二、井上千代美、小川勝良◎、
木村陽二、呉本圭樹、佐藤賢治

●教員・スクール事業委員会
定員６名
北野正浩、福田一郎、福田武史、
山口隆文◎

●安全性委員会
定員６名
伊尾木浩二◎、大井義継、金井誠、
佐藤克久、目黒敏、山本貢

●制度委員会
定員５名→今期７名
泉秀樹、伊藤了、井上潔、大野洋、
千葉櫻えりか、中瀬誠◎、横山豪

●ハングパラ振興委員会
定員５名
奥山俊、川地正孝、高山健太、
平石健悟、堀江譲◎

●役員選任実行委員会
定員５名
神谷明英、櫻井さやか、鈴木由路◎、
服部良亮

教員技能証検定の再検定料を見直しました

教員技能証検定の再検定は、実検定と同じ内容になるため、グランドハンドリング・フライト実技、誘導・指導実技の再検定料を2026年４月14日より下記のとおり変更しました。受検される方はご注意ください。

グランドハンドリング・フライト実技再検定料：10,000円（どちらか一方だけでも同額）

誘導・指導実技再検定料：10,000円（どちらか一方だけでも同額）

パラグライディング教本・ハンググライディング教本を値上げ

印刷費用や宅配便等の料金値上げもあり、各教本の価格を９月１日注文受付分より下記のように変更します。
□パラグライディング教本
3,000円→4,500円（送料込）

県連だより

■機体購入補助金について
大阪府フライヤー連盟

近年の物価高や円安によるハンググライダー・パラグライダーの価格高騰により、機体の買い控えが増えています。これは輸入代理店やスクール等業界全体の衰退だけでなく、経年劣化による安全性が損なわれた機材で飛び続けてしまうことにも繋がります。

そこで大阪府連盟は、少しでも購入の後押しになればと、機体買い替えの支援金を出すことにしました。

詳細は大阪府フライヤー連盟メーリングリストにて案内します。メーリングリスト未登録の方は下記のとおり登録をお願いします。

＊他の事業の説明や意見交換も原則としてメーリングリストで行うので、大阪府のフライヤーの方は登録をお願いします。

【メーリングリスト登録】
氏名／JHFフライヤー登録番号／メールアドレスを明記の上、登録依頼メールを送ってください。
送信先：info@jhf-osaka.main.jp
＊当連盟ホームページでもメーリングリストの説明をしています。
https://jhf-osaka.main.jp/hp/
https://jhf-osaka.main.jp/hp/service/service1

大阪府連盟　理事長　片岡義夫

■新体制および事務局移転のお知らせ
山梨県ハング・パラグライディング連盟

【山梨県ハング・パラグライディング連盟会員の皆様へ】

会員の皆様へ大変重要なお知らせです。当連盟の理事長を長年務められた岩橋亘氏が、2025年３月23日に病気のため逝去されました。生前、岩橋氏はお一人で連盟の事務作業等の一切を担われており、今後の連盟の事務活動を滞りなく継続するため、以下の通り新体制へと移行し、事務局を移転することとしました。

【新事務局および新体制】
新理事長：篠原紀行
新事務局：〒409-0125 山梨県上野原市桑久保843　西東京パラグライダースクール内
メール：info@nishitokyo-para.jp

会員の皆様にお願いです。本件についてご意見やご質問のある方は、2026年８月31日（月）までに新事務局メールアドレスまでご連絡ください。誠に勝手ながら、期日までにご意見等がない場合は、本方針についてご承認いただいたものとさせていただきます。連盟の円滑な運営継続のためご理解とご協力をお願いします。

山梨県連盟　新理事長　篠原紀行

■総会開催のお知らせ
茨城県ハング・パラグライディング連盟

茨城県ハング・パラグライディング連盟総会を開催します。会員の皆様、ご都合のつく範囲でご参加ください。
日時：2026年９月５日（土）17:30〜
会場：ハンググライダースクール晴飛ショップ（〒315-0161 茨城県石岡市小塙1265）
議題：役員選任／定款の改定／JHF総会報告
参加資格：茨城県在住で総会当日に有効なJHFフライヤー登録証を所持している方
お問い合わせ：当連盟事務局　大澤豊
E-mail ▶ bumpyosawa@ybb.ne.jp

＊テイクオフ&ランディング、基礎技術のDVDを合わせてお送りします。
□ハンググライディング教本
3,000円→4,500円（送料込）
□補助動力副読本
1,000円（送料別）→1,500円（送料込）

上級タンデム技能証検定会を開催します

2026年度の上級タンデム技能証検定会は下記を予定しています。日程など詳細が確定したらJHFウェブサイトでご案内しますのでご覧ください。

8月：獅子吼（石川県）
9月：朝霧（静岡県）
12月：紀の川（和歌山県）
2027年2月：朝霧（静岡県）

PGジュニア世界選手権 日本代表チームを選考しました

第2回FAIパラグライディングジュニア世界選手権が、8月22日～30日に北マケドニアのKrushevoで開催されます。日本代表チームは次のメンバーです。

選手：下野悠敬、能祖雄大、花田瞬
チームリーダー：佐藤友紀
＊ジュニア選手権の報告は次号に掲載する予定です。

PGXC／アキュラシー日本選手権 開催地と日程が決まりました

□2026パラグライディング日本選手権 in ニセコ
9月19日～23日　北海道ニセコ町ニセコフライトエリア（ニセコアンヌプリ国際スキー場）
□2026パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 南陽
10月17日～18日　山形県南陽市南陽スカイパーク

第13回JHFフォトコンテスト 9月8日が締切です

第13回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストへの作品を募集中です。9月8日の応募締切が近付いてきました。募集要項はJHFウェブサイトでご案内しています。

【JHFウェブ：フォトコン】
https://jhf.hangpara.or.jp/support/info/2026/20260414.html

これから撮影しても間に合います。お気軽にご応募ください。皆がまいった！と思う作品、笑顔になる楽しい写真をお待ちしています。

訃　報

5月28日、ドイツにおいて、板垣直樹氏がハンググライディングクラス5世界選手権に向けて機体調整中の事故で逝去されました。

板垣氏は1999年度より茨城県ハング・パラグライディング連盟の理事長を努め、地域のリーダーとして活躍されてきました。JHF活動では2008年度～2019年度ハンググライディング競技委員会の委員長として、競技の安全性向上・レベルアップにご尽力いただきました。

ベテランインストラクターとして多くのフライヤーを育成される一方で、トップクラスの競技者として活躍。2025年にはハンググライディングクラス5世界選手権で優勝、世界一の座を獲得されました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

学連ニュース

こんにちは。2026年度学連の副理事を務める横浜国立大学2年の平澤巽です。まだまだ駆け出しのフライヤーですが、イベントの開催や参加を通して交流を深め、学生フライヤーの皆さんのお役に立つ活動につなげていく所存です。今回は今年度初めの学連総会と新歓の様子をご紹介します。

■学連総会

4月20日に開催された学連総会では前年度の決算や今年度の予算、活動方針について報告と議論がなされました。

2025年度決算は2024年度より大きく改善し、今年度はさらに財源の健全化の推進と学連の皆さんへのリターンの充実をしていくように計画しています。

活動方針について、ハングとパラの合同砂丘合宿が今年度からは開催できないという大きな変更点がありました。代替としてパラグライダーの練習合宿は朝霧高原で9月に開催の予定です。ハンググライダーについては、他エリアの新入生同士の交流を夏の大会で行うなど少しでも代替できる催しを実施できると良いと意見が出ました。

また、昨年度のハング新人戦が開催不能で中止になったことに対し、今後は開催を他エリアとする、全国の学生で運営を分担するなど、開催を持続するための意見が共有されました。

■新人歓迎イベント

今年はさまざまなエリアで新歓が大成功の様子。私の活動エリア、足尾でも昨年度より多く40名弱の新入生と活動を共にできることとなりました。

体験会で先輩のランディングを見守る新入生たち。

合宿では新入部員の交流も進んだようです。

足尾では各大学合格発表の時期からSNSでハンググライダー・パラグライダーの紹介動画や新歓イベントの情報を発信。2日間の河川敷体験会では浮遊体験を、計6日の現地体験会では浮遊体験に加えテイクオフやランディングの見学を行いました。体験会後には新入部員たちと合宿を行い、初めての講習を受けたり同期と仲を深めたりと新しい代のスタートを切ることができました。

4月から新体制となりました。今年度も学連は全国の学生フライヤーの皆さんが楽しく安全にフライトし活発に交流できるように活動していきます。皆さんのご理解ご協力があって活動を続けることができていますので、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

学連副理事長 平澤巽

自由な飛行の環境を守る／未来につなぐ

日本のハング・パラグライディングをリードする教員検定員18名

2026年３月31日に前期教員検定員の任期満了を迎えるにあたり、２月26日・27日に静岡県富士宮市においてJHF教員検定員研修検定会を実施。各都道府県連盟の推薦を受けた候補者の方々に参加いただき、教員・スクール事業委員会が中心となって研修と実技検定を行いました。

JHF教員検定員制度は、全国各地においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化など、指導的役割を担っていただく方を認定する重要なものです。教員検定員は、教員実技検定、安全セミナーも含め講習会や検定会の講師、事故の調査も行います。

研修・検定の結果、2026～2028年度教員検定員として認定され、活動を開始した18名の方々の声を聞きました。

＊PG＝パラグライディング、HG＝ハンググライディング、連盟名は推薦を受けた道府県連盟。

【PG】西泉 隆広
北海道ハング・
パラグライディング連盟

北海道・ルスツでスクール運営を続ける中で、パラグライダーの魅力をより多くの方に伝え、安全に楽しめる環境の維持を大切にしています。

近年はフライヤーの高齢化や新規入門者の減少など課題もありますが、地域の観光資源として誰もが安心して楽しめる環境づくりが重要だと考えています。

スクール現場で培った経験を活かし、安全管理や指導技術の向上に取り組むとともに、地域に根ざした活動と全国の仲間との交流を通じて、パラグライダーが生涯スポーツとして発展していく一助となれるよう努めてまいります。

【PG】田代 茂樹
北海道ハング・
パラグライディング連盟

今期も教員検定員の任を拝命いたしました田代です。３年間の任期中、全国水準の最新知識や指導技術をしっかりと北海道の地に根付かせることが私の役割だと考えております。地方だからといって情報に偏りが出ないよう、常にアンテナを高く持ち、エリア全体の健全な発展と安全フライトの普及に努めてまいります。

【PG】金井　誠
山形県ハング・
パラグライディング連盟

近年、航空法や電波法、顧客の権利意識や管理賠償責任など私たちを取り巻く社会環境が大きく変わってきています。また、機体など飛ぶための道具も日進月歩で、昔の飛ばし方ではうまく飛ばないばかりか危険な場合も増えてきました。

安全セミナーや更新時講習会を通じて教員・助教員の皆さんは勿論、ベテランパイロットの皆さんにも時代に合わせて進化してゆけるように、新しい正しい情報を地方にも行き届くように努力します。

【PG】伊尾木 浩二
群馬県ハング・
パラグライディング連盟

今回も引き続き教員検定員をつとめることになりました。今後も今まで同様に検定員として自分自身が見本になるような役割と指導、安全意識向上、事故を減らせるような取り組みを行っていきたいと思います。

【HG】北野 正浩
茨城県ハング・
パラグライディング連盟

空を飛ぶことは、楽しさと同時に危険を伴います。自分はなぜ飛び続けているのかと考えると、飛ぶことと同じくらい、空を飛ぶ仲間たちのコミュニティが好きだからです。新しく仲間に入ろうとする人に、安全に楽しく飛ぶ方法を覚えてもらうのが教員の役割です。その教員の皆さんに、常により高い技量と安全意識を保ってもらうために、教員検定員として活動します。自分が飛び方を覚えるまでに、苦労したこと、上手くいかなかったことを思い出しながら、どうやったら誰もが楽しく上達できるかをいつも考えています。

【PG】福田 武史
茨城県ハング・
パラグライディング連盟

安全を第一に考えながら、みなさんの技術向上や技術維持のお手伝いをしていきたいと思っています。教員・スクール事業委員としても活動しているので、現場と連携を取りながら、少しでも事故を減らし、より良い環境づくりに取り組んでいきます。

老若男女問わず、誰もが安心して楽しく続けられるパラグライダーを目指していきます。

【HG】福田 一郎
神奈川県ハング・
パラグライディング連盟

ハンググライダーを始めて早45年、以前からフライト技術以外にも、理論や教えることにも興味を持っており、今回検定員を務めることになりました。

どんなスポーツでも事故は起こりえますが、スカイスポーツではちょっとした不注意が重大な結果を招きかねません。知識だけで事故を防げるわけではありませんが、知っていれば対処できたのではないか、ということもあると思います。これまでの経験を踏まえて、インストラクターに確かな知識を持ってもらえるよう努めてまいります。

【PG】呉本 圭樹
長野県ハング・
パラグライディング連盟

パラグライダーの魅力である「自由なフライト」ですが、日本での受け入れ態勢は欧米に及ばないのが現状です。今後10年、20年先もこのスポーツが魅力を放ち続けるため、そして目覚ましい機体の進歩を趣味とビジネスの両面で発展させるため、強い危機感を持って今回参画いたしました。これまでの常識にとらわれることなく、変革に対して具体的な動きを見せ、より良い環境づくりの一助となれればと考えております。

【PG】目黒　敏
静岡県フライヤー連盟

JHFの活動としては、教員検定員のほかに静岡県連盟理事長と安全性委員を担当しています。パラグライダースクール運営を行いつつ、パラグライダーの輸入・販売を仕事にしているので、メーカーやデザイナーとの接点があり、マテリアルやデザインについての最新技術や情報を得やすいため、JHF活動に活かし、さらにXCや競技、SIV＆アクロ、パラカイトに取り組んできた経験を、必要に応じフィードバックできればと考えています。

【PG】加賀山 務
静岡県フライヤー連盟

主に、朝霧高原での検定や講習に参加させていただいていますが、要請によって他県連開催の検定に参加させていただくこともあります。現在還暦を迎え、多くの高齢フライヤー同様に、身体能力の低下を実感する日々を過ごしておりますが、安全なフライトのためには、無理のないフライト計画と安全点検確認が重要だと考えております。検定、講習においても、技術向上以上に安全意識の向上を主眼に行ってゆきたいと思います。

【PG】大竹口 昌輝
静岡県フライヤー連盟

教員検定にあたり、皆さまの見本となれるよう心掛けてまいります。また、毎年減少傾向にあるフライヤー人口が少しでも増え、より多くの方にパラグライダーの楽しさや魅力を知っていただけるよう努めていきたいと考えております。まだまだ未熟ではありますが、多くの方々との交流を通じて学び、自分自身も成長していくことを楽しみにしております。

パラグライダーを通じて、日本中の空がより明るく、楽しい場所になることを願っております。

【PG】山口 隆文
石川県フライヤー連盟

教員という立場には、楽しむ情熱と同じくらい、あるいはそれ以上に、感情に左右されない「徹底した安全管理への客観性」や「現場を預かる者としての責任感」が求められると思います。

教員検定員になり、皆さんが持つ「空への熱意」を大切に受け止めつつ、現場の命を預かる指導者として不可欠な、確かな技術と冷静な判断力を、皆さまと共に確認し、高め合っていきたいと考えております。楽しさの先にある「本当の安全と信頼」を、共に目指していきたいです。

【HG】山田 真由
京都府フライヤー連盟

滋賀県荒神山エリアでスクールをしています。大学で空の世界に入り二十数年経ちました。その間、楽しいフライトだけでなく、悲しい事故や人口減少によるエリア／クラブの閉鎖も見聞きしました。

全員が１日を無事に終える、その当たり前のことのためには、技術や知識の向上やエリアの維持管理など様々な努力が欠かせません。

ひとりの教員で出来ること、見える範囲は限られています。そこにいる皆で一緒に考えて守っていければと思っています。

【PG】片岡 義夫
大阪府フライヤー連盟

フライヤー人口は順調に（笑）減少、しかし事故は大して減っていません。事故を減らすためには、全てのフライヤーが技術や知識だけでなく、高い安全意識を持ち続けようと努力し続けることが大切です。

我々検定員の保留や合否判定は受検者のやる気やプライド、これからのこのスポーツへの関わり方に影響を与えてしまうことは、しっかり理解した上で、このスポーツを安全に楽しんでもらえるスクーリングができる教員が増えることを願っています。

【HG】松村 貴博
鳥取県フライヤー連盟

今回も引き続き検定員を務めさせていただきます。

検定というとなんだか難しいように思われてしまいますが、悩みや気づきを分かち合い、共に成長し合える貴重な機会だと思います。

教え合い、支え合うことで、空の世界はもっと安全で楽しくなると信じています。

皆さんと一緒に、安心して飛べる空を育んでいきたいと思っています。

【HG】外村 仁克
和歌山県フライヤー連盟

ハングやパラが危険なスポーツだとは全く思わないのですが、気になることがあります。

人間の能力はほとんど変わらないのに、機体やハーネスは50年でほぼ倍の性能になりました。JHFの努力もあり指導のレベルも向上していますが、安全に飛ぶことを教えるには今後、教員も更なる研鑽が必要だと思います。

技術的には後続の教員たちについていけないのですが、古参兵の経験を教員検定員の活動に生かせたらなと思います。

【PG】殿塚 裕紀
熊本県フライヤー連盟

教員検定員として、パラグライダーの魅力を伝えるだけでなく、安全意識を向上させ、指導者としてのあり方を次世代へ丁寧に伝えていきたいと考えています。

技術の評価にとどまらず、人を育てる視点を大切にし、より安心して空を楽しめる環境づくりに取り組んでまいります。

【PG】木村 陽二
沖縄県ハング・
パラグライディング連盟

パラグライダーが趣味、仕事など様々な立場や状況に差がある現況のなかで、全ての人がより楽しく、何よりもより安全に、周囲からもさらに理解を得られて飛び続けていてほしいと、沖縄のただただ青く美しく柵のない海を飛ぶたびに思います。

一検定員としてパラグライダーの未来にわずかでも役に立ち貢献できればと考え参加しています。

Flyer's Voice
Yuichiro HAYASHI

林 祐一郎 パラグライディングスクール助教員

空を自由に飛びたいな～♪という、願いが叶えられて…

ホームエリア・スクール：パラライフ北海道

赤井川村カルデラ

スラローム練習

プチ雲海フライト

ツリーラン救助の練習も

ランディングでキャンプ

伐採の丸太を切ったり

■パラライフ北海道エリアの特徴や魅力

場所は北海道の赤井川村です。小樽や余市の南側ののどかな村ですが、「日本で最も美しい村連合」に加盟しており、カルデラの底に集落がある珍しく美しい風景が広がっています。盆地地形のための寒暖差から、近所の農家さんの野菜はおいしく、秋には雲海が高確率で発生します。

パラグライダーエリアとしては標高差は250mほどで高くはないですが、日本海からの北風と太平洋からの南風がぶつかりコンバージェンスが発生すると、1000mを超える高度獲得も可能で、村を一周するカルデラ沿いに、クロカンもできる潜在能力を秘めた、小粒だがきらりと光るビッグフライトエリアです。

北向き、南向きと二つの練習バーンもあり、グラハン環境も整っています。毎年のツリーラン講習は、バリエーションを変えながらスクール会員全員実施しており、地上で安全と技術の研鑽を積んで腕を磨き、フライトで腕を試すという、一般の社会人が安全に上達してフライトを楽しめる、日本一のエリアではないかと考えています。

■パラグライダーを始めたきっかけ

20代前半の社会人なり立ての頃、地元の名古屋から山梨に遊びに行った時に、パラグライダーの浮遊体験に申し込みました。うまくできたりできなかったりでしたが、とても楽しいひとときで、「いつかやりたい」と思いながらもその時はそれまででした。

その後30歳の時に転勤先の京都で、社会人になってからテニスやロードバイクを始めたという会社の先輩からの「やりたいことがあるなら今日やれよ。明日になったら年取っちゃうだろ。」という言葉に衝撃を受けて、琵琶湖のパラグライダースクール（JPA：びわ湖スカイパーク）にすぐ電話してパラグライダーを始めました。約４年間の所属の間にパイロットを取得して、その後転勤で札幌に移りパラライフ北海道に所属して約10年の間に、スクールの役に立ちたいと思い、助教員の資格を取得して現在に至っています。

■パラグライダーをやってよかったこと

まずは、「空を自由に、飛びたいな～♪」という、おそらく誰しもが幼い頃に聞いたことがある願いが叶えられてよかったです。

高度獲得して、長時間のフライトも飛び甲斐がありもちろん楽しいですが、穏やかな空域の朝一番のぶっ飛びも、本当に鳥のように滑空しているようで実は大好きだったりします。短い時間でも、気持ちよく空を飛ぶという非日常が、日頃の嫌なことも吹き飛ばすような爽快感があります。

フライトして、赤井川の温泉に入って、ランディングでキャンプして焚火を眺めるという土曜日を過ごすのは、えも言われぬ快感です。

■パラグライダーの一番の魅力

それほど難しくなく、人生のいろどりを最高に豊かにさせてくれるのが一番の魅力だと思います。

初期の費用の用意は必要ですが、長く続ける趣味と考えれば、他の趣味と比べても高くはないです。走って、きちんと練習することができれば、老若男女問いません。限られた人しかできないものではなく、その気さえあれば、ほとんどの方が空を飛ぶという最高の時間を満喫できます。

■これからの目標

パラライフ北海道が末永く継続できるお手伝いをしたいと考えています。そのためには新規メンバーを増やすことだと思います。

こんなに楽しいパラグライダーを自分の体が満足に動く間はずっと続けていきたい。他のエリアにも足を伸ばしてまだ見ぬ美しい景色の中でフライトしたい。そのためにスクールが末永く続いてほしい。

校長の指導と恵まれた練習環境で、僕自身のスキルは安全性と技術面が上達していますが、今いるメンバーや、将来の新たな仲間とも一緒に上達して、安全に楽しくフライトしてスクールを盛り上げていきたいです。どうしたら新規メンバーを増やせるのかは今のところ答えはわかっていませんが、考えて、試行錯誤して、反省してを繰り返してパラライフ北海道の継続のお役に立ちたいと考えております。

■JHFウェブサイトでFlyer's Voiceのバックナンバーも掲載中です。ぜひご覧ください。

【JHFウェブサイト】
https://jhf.hangpara.or.jp/flyers_voice/flyers_voice34.html

2026ハンググライディングクラス５日本選手権 in ASHIO（クラス１スポーツクラス大会併催）

世界王者・板垣直樹が10回目の日本選手権者に

2026年3月26日-29日　茨城県石岡市足尾山ハンググライダーエリア　報告：クラス１大会実行委員長　北野 正浩

クラス５（リジッドウィング）日本選手権と、クラス１のスポーツクラス（キングポスト付き）大会、Sport East Japan Championshipの併催という初めての試み。クラス５は３月26日～29日の４日間、スポーツは３月28日～29日の２日間の競技日程であった。しかし26日、27日が共に雨で競技キャンセルとなったため、期せずして両クラスとも２日間の競技となった。

3/28（土）

春らしく北方向に100km以上のタスクも検討されたが、栃木県北部まで行くと雷雨の可能性があるため、33km北の芳賀ゴールを設定。前日までの雨で地面が湿っており、前半は上げるのに一苦労。クラス５は真家山－鬼怒川（小山）－益子とジグザグに振って芳賀ゴールの70km。板垣が最初から先頭を１人で飛びトップゴール。岩崎、古坂、塩野が続いた。

スポーツクラスは同じ益子ゴールまで一直線。雲底まで上げたのは３名のみで、最も距離を伸ばした國見がデイリートップ。

3/29（日）

高気圧に覆われ晴れ。しかし北上すると局地的な雷雨の可能性あり、足尾山周辺も午後は東の強風、という予報でタスク設定が困難。

クラス５は約50km北上→西に約10km→33km北上して那須ゴールの98km。先頭の選手達は順調に進んだがゴール手前に雷雨が発生し、やむなくタスクストップ。ゴールに最も近付いたのは板垣だが、タスクストップ時の高度が高かった山本がデイリートップ。

スポーツクラスは安全のため遠くにゴールを設定せず、エリア内を往復するタスク。最初のサーマルをとらえるのに苦労し、スタートを切れたのは野呂、北野、小梶の３名のみ。12時前後に全体が渋くなり、２度目の燕山を取れずに全員降りてしまった。

総合

雨が降り続いたため、地面が湿ってサーマルの立ち上がりが遅く、難度の高い競技となった。それでもクラス５は、機体性能と選手全体の技量の高さにより、２本のレースができて日本選手権が成立した。安定した強さを見せた板垣が優勝し、10回目の日本選手権者となった。

クラス５の古坂学俊選手、目指すはもちろんゴール！

スポーツクラスの鳥海真弓選手、テイクオフへ。

一方スポーツクラスは、競技委員会がポイントシステムを設定して初めての対象大会。激しい気象条件が予想される春の開催のため、スポーティングライセンスとXC証を必須にして選手の技量水準を選別した。キングポスト付きの機体でもレースが成立することを証明したかったが、２日間とも最初のサーマルで上げるのが難しく、多くの選手がスタートを切ることもかなわなかった。全体に得点は低かったが、参加選手たちの満足度は高く、次回の開催を要望されている。HGシリーズに毎年参加している選手もいれば、以前参加していた選手の復帰もあり、新規にXC証を取得して参加した選手もいた。大会慣れしている選手も、そうでない選手も、同じ土俵で競技ができるのがスポーツクラスの良いところである。男女比が５：５であったことも特筆すべきといえよう。

［クラス５日本選手権］

１位	板垣	直樹	茨　城	1910.8
２位	塩野	正光	栃　木	1643.7
３位	古坂	学俊	茨　城	1492.0
４位	内藤	邦裕	千　葉	1380.2
５位	岩崎	正芳	群　馬	1342.6
６位	山本	剛	東　京	1273.0

クラス５入賞者。後列中央に日本選手権者、板垣選手。

併催スポーツクラス大会の参加者たち。優勝は北野正浩選手、２位に國見礼選手、３位は野呂文人選手。

写真で空の仲間を増やそう！ JHFフォトコン作品募集中！

今年もJHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。テーマは、ハンググライダー・パラグライダーが中心で一般の人の目を引きつける写真／ハング・パラグライディングの楽しさ、素晴らしさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝える写真。

応募締切は2026年９月８日です。プリントはもちろん、データでも応募できます。JHFウェブサイトで作品募集要項を確認のうえ、お気軽にご応募ください。

全応募作品から14作品を2027年のJHFカレンダーに採用の予定です。

【JHFウェブ：フォトコン】
https://jhf.hangpara.or.jp/support/info/2026/20260414.html

2026ハンググライディングクラス1日本選手権 in ASHIO

期待した気象条件に恵まれず日本選手権は不成立

2026年4月2日-5日　茨城県石岡市足尾山ハンググライダーエリア　報告：大会実行委員長　北野 正浩

春の好条件を期待して４月の足尾山で日本選手権を開催した。しかし低気圧が次々と通過して雨や曇りになり、４日間のうちレースが成立したのは２日目の１本のみであった。

4/2（木）

雨天のためキャンセル。

4/3（金）

芳賀→黒羽と北上して、烏山に戻る76kmタスクを設定。高気圧に覆われ絶好の気象条件だが、前夜の雨の影響で予想よりサーマルの立ち上がりが遅くなった。前半は渋く、スタートを切れない選手もいる中、氏家・大門・櫻井らがリードする。15分遅れの２回目スタートの選手が追い上げ、レースは混戦となる。

単独で高度を保った石坂がゴールしてデイリー１位。砂間、佐藤もゴール。大門・鈴木・櫻井・松村はESSを切ったがゴールに届かず減点。

4/4（土）

雨天のためキャンセル。

4/5（日）

セットアップして準備をするが、雲が張り競技成立は厳しい状況。それでも日本選手権成立を目指し、山沿いに一往復して西の関城ゴールに向かうタスクが組まれた。雲底はわずか600m、サーマルは渋くレベルキープで粘るのがやっと。ミニマム距離を越える選手は出ず競技は不成立となった。

日本選手権としては不成立だったが、石坂が２日目の得点により優勝した。

1位	石坂	繁人	茨　城	932.2
2位	大門	浩二	茨　城	917.0
3位	鈴木	博司	岐　阜	909.2
4位	砂間	隆司	愛　知	902.3
5位	櫻井	大朗	栃　木	881.7
6位	佐藤	史宏	三　重	862.0

選手・役員揃って「次回こそ！」 前列左から５人目が優勝の石坂選手。

第11回FAIハンググライディングクラス５世界選手権

国別３位を獲得、個人では櫻井・塩野が入賞！

2026年5月31日-6月13日　イタリアGemona　報告：選手　櫻井 大朗

第11回クラス５世界選手権が、2026年５月31日～６月13日にイタリア北東部のジェモナで開催された。今大会はクラス１欧州選手権との同時開催となった。

ルート選択が勝敗の鍵に

ジェモナはアルプス南麓に位置し、東西に山岳、南に平野が広がるクロスカントリーエリアである。今大会は全７タスクが86kmから172kmで設定され、山岳と平野を組み合わせた戦略性の高いレースが展開された。遠回りでも確実な山岳ルートか、最短距離だがリスクある平野ルートか、その日の条件を読みながらのルート選択も勝敗を左右する要素となった。

大会直前に、前回世界王者であり日本のエースでもあった板垣直樹が、練習中の事故で亡くなるという悲しい出来事があった。大会練習日の追悼では、参加選手全員から長い拍手が送られ、故人への深い敬意と友情が示された。日本チームにとっては大きな悲しみの中で迎える大会となった。

日本チームは好発進し上位を維持

日本からは塩野正光、山口裕之、冨原淳、櫻井大朗の４名が出場。序盤のTask2では櫻井が２位、山口が４位、塩野が９位に入り、この時点で日本チームは国別２位の好スタートを切ることができた。Task3は塩野の９位を筆頭に日本チーム全員がゴール。Task4でも櫻井が５位、冨原が９位と健闘し、国別上位を維持した。

Task3：全員ゴールの日の雲

一方、今大会最長172kmのTask5では、日本勢もゴールしたものの順位はやや下がった。この日は最高高度2400mの好条件で、切り立った山々と深い谷が続くアルプス山域を飛ぶタスクが設定された。こうした大規模な山岳飛行は日本国内では練習機会が少なく、欧州勢との経験の差をあらためて感じる一日となった。

チーム一丸、国別３位を獲得

最終的に日本チームは国別総合で３位を獲得。突出した高得点こそなかったものの、各タスクで常に３名以上が

Task4：テイクオフに並ぶグライダー

最終日：ゴールでの日本チーム

ゴールし、安定して得点を重ねたことが表彰台獲得につながった。個人では、７タスクすべてでゴールした櫻井と塩野がそれぞれ総合７位、10位に入り、入賞を果たした。

国別総合は圧倒的な強さでドイツが優勝。個人総合ではドイツのMarkus Baisch選手が頂点に立った。出場選手中で最軽量ながら、小型高速機Atos VRSで世界を制した姿は、軽量選手の多い日本チームにとっても大きな刺激となった。

最後に、現地や遠隔でチーム活動を支えてくださった木村氏、塩野氏、内藤氏をはじめとするサポートの皆様に、あらためて感謝申し上げたい。

［個人総合］
１位　Markus Baisch　ドイツ　6415.2
２位　Andreas Sand　オーストリア　6250.4
３位　Kari-Heinz Baisch　ドイツ　5964.9
７位　櫻井　大朗　日本　5272.5
10位　塩野　正光　日本　5000.2
15位　冨原　　淳　日本　3767.2
20位　山口　裕之　日本　3504.4
［国別総合］
１位　ドイツ　18583.3
２位　オーストリア　16910.5
３位　日本　15042.2

個人入賞者。前列左端に７位櫻井、右端が10位の塩野。

国別トップ３。圧倒的な強さでドイツが勝者に。

板垣のメダルを掲げる冨原チームリーダー。

JHF総合保障制度 中途加入ができます

フライヤー会員の皆さんに任意で加入いただいている傷害保険、「JHF総合保障制度」の2026年度募集期間は５月23日までででしたが、ご希望の方は中途加入ができます。詳細はJHFウェブサイト＞フライヤーサポートデスク・連盟からのお知らせをご覧ください。
＊ハンググライダーは対象外です。

【JHFウェブサイト】
https://jhf.hangpara.or.jp/support/info/2026/20260619.html

JHF LIVE
ハング・パラの魅力を随時発信中

JHFの活動をいち早くお伝えするため、ハング・パラ振興委員会が中心となって立ち上げた『JHF LIVE』ですが、大会の様子やフライヤーへのインタビューなどを動画で随時発信しています。

皆さま、情報発信源となるXアカウントのフォローと拡散をお願いします。

Xをされていない方のためのポータルサイトも用意しました。右下のQRコードのサイトを「お気に入り」に保存していただけたら幸いです。メールアドレスを登録すると、新しい投稿のお知らせをメール通知で受け取れます。

【X】
https://x.com/JHF_LIVE

【ポータルサイト】
https://jhfhangpara.wixsite.com/jhf-live

JHFからのお知らせ／お願い

■JHF公式インスタグラムに動画・写真をご提供ください

JHF公式インスタグラムで、パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような動画や写真を公開しています。あなたやお仲間の楽しいフライトの様子をぜひ！Googleフォームからご提供をお願いします。ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。

【JHFインスタグラム】
https://www.instagram.com/hang_para/

■お名前・ご住所が変わったら早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局（下記）にお知らせください。

［お知らせいただきたいこと］
□フライヤー会員番号
□お名前（氏名変更の場合は新旧名）
□新住所
□連絡先電話番号
□メールアドレス

各種申し込み／お知らせ／お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人
日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301
TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089
E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp
https://jhf.hangpara.or.jp
事務局業務効率化のためできるだけメールでのご連絡をお願いします。

JHFフライヤー会員マイページ メールアドレス登録のお願い

JHFでは会員管理システム等の改修を準備中です。郵便料金値上げへの対応、事務効率化のため、システム改修後は更新通知や会員証等の発行・発送等について、メールを利用してご案内していく予定。もうすぐマイページで会員証、技能証、登録情報を確認できます。まだメールアドレスご登録のない方はこちらからご登録ください。

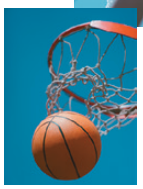
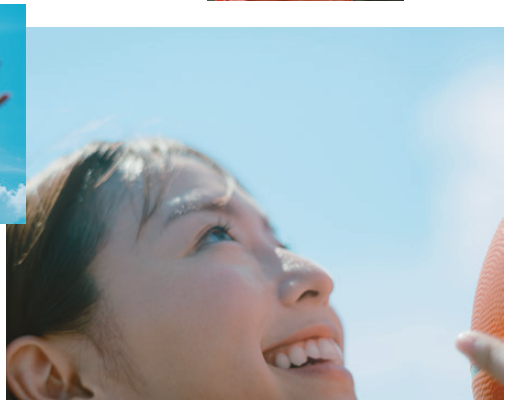
【メールアドレス登録】
https://jhf-member.hangpara.or.jp/email-registration

JHFレポート254号
発行日：2026年（令和8年）7月30日
発　行：公益社団法人　日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）
編　集：JHF事務局
印　刷：株式会社アイセレクト
本レポートの一部あるいは全部を無断で複写複製することはご遠慮ください。

これからももっと、
私はスポーツを楽しむんだ。

卓球歴24年。バスケ歴1日。
卓球の200倍もの重さがあるボールは、
なかなか言うことを聞いてくれない。

それでも、体を動かすだけで気持ちがいい。
初対面でもあっという間に仲間になれる。
競技人生での楽しさとは違う、
スポーツの楽しさに出会えた。

スポーツを極める人も、楽しむ人も、
すべての人のために、
スポーツくじの収益は使われています。

スポーツくじ WINNER LOTO BIG

スポーツくじは、スポーツと人を育てる仕組み。

⑱19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能 デジタル無線機 使用のお薦め

JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

デジタル方式なので混信が少なく、クリヤーで聞き取りやすくなっています。

上空利用 15チャンネルを搭載し現在販売されている機種は下記のとおりです。STANDARD製のVXD1S、ICOM製のIC-DPR4 PLUSシリーズ、八重洲無線のSRD580・SRD585シリーズ。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を11台保有し、フライヤー会員に貸し出ししています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているかご確認ください。

登録をしないまま無線機を使用しますと、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。

お忘れのないようお願いします。